

放流事業は継続的に

関係者と協議をしたい

／海洋農林課長



むらこし ひさお 議員

答

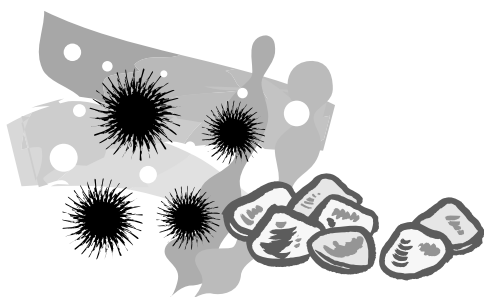
谷口 海洋農林課長

くなつたことにより中止していたが、平成18年度から復活し、町単独事業として入野地域で年間2万個の放流を行っている。平成21年度に初めて出荷することができ、価格面でも相当な値がつき、総出荷額で125万円にも上がっている。

ハマグリにおいても、以前に放流したもののか、天然で育つたものか分らないが、今年になって急に大型のものが相当数取れたということもあり、再度漁業者や漁協、そして漁業指導所と協議をして行きたい。

問 根付漁業として放流事業でウニ、ハマグリを単年度で行っているようだが、数年の継続的な事業展開が必要とされているのではないか。

過去の放流事業を見ていても、単年では効果が期待できないのではないか。今回の放流の追跡調査などをして計画的に行うことも必要ではないか。



事業推進の十分な説明を
職員に指導している／町長

行政サービス

答

下村 町長

に土地改良事業という仕事に携わっていた時に体得したことが、町長になってから行政にいかされていないという指摘かと思う。

現場に直接赴くことはあまり出来てないが、少なくとも職員には指導をしている。必要に応じて、直接行って話を聞いておれば、解決する場合もあるし、行動することによっていろんな解決策が必然的に出てくることもある。極力その注意を怠りなく、住民の声に耳を傾けながら事業を進めることは指導をしているつもりだが、行き届いていないところもあるかと思う。

これからそういうところは努力をしなければならぬと思う。

問 行政の姿勢として、もう少し事業を進める内容によっては、町民に対して十分な説明をする機会を設けるべきではないか。行政サービスとは町長が指導力を持つて職員を動かすことにあるのではないか。

職員が町民の方へ足を向けて、歩み寄っていくことから始めないとサービスにつながらないのではないか。